

広報 たかのす

みやび
雅やかに

うたい
謡と
まい
舞



'95 11/15

11/15号目次

- 東京鷹巣会が開かれる
町長日誌 3
- 第27回鷹巣町文化祭（第32回
小・中学校の部）・第12回産
業祭カメラスケッチ
..... 4
- 100人が綴る「合併当時の思
い出」「未来たかのすへのメ
ッセージ」② 6
- 健康広場 18
- まちの話題 20
- 暮らしの情報 21
- 鷹巣町廃棄物の処理及び清掃
に関する条例が改正されまし
た② 24

〔表紙のことば〕



鷹巣町文化祭開催中の11月3日、ファルコンを会場に第24回邦雅祭が催され、15団体が日頃の稽古の成果を披露しました。プログラムの最初を務めた謡曲（観世流・謡曲研修会）では、素謡と仕舞で雅やかな世界を表現し、古典芸能ファンを喜ばせました。

（関連記事4～5ページ掲載）

人口と世帯数 10月31日現在
住民基本台帳による

総人口	23,219人 (18人増)
男	11,157人 (11人増)
女	12,062人 (7人増)
出生	21人 転入 73人
死亡	25人 転出 51人
世帯数	7,466世帯(15世帯増)

カルチャー&スポーツ



ファルコン

- 11・17(金) 鷹巣町社会福祉研修大会 入場/関係者 13:30~16:00
- 11・18(土) 鷹巣町商工会青年部創立30周年記念式典及び講演会
入場/招待券必要 13:00~18:00
- 11・19(日) 高嶺流舞踊発表 入場/前売1,000円、当日1,500円
11:00~17:00
- 11・22(水) 第4回ふるさと産業を学ぶ会 入場/関係者 12:45~15:00
- 11・23(木) 鷹巣祇園太鼓審査会 入場/無料 13:00~19:00
- 11・24(金) 秋田県吹奏楽研究協議会 入場/無料 9:00~17:00
- 11・26(日) (たかのす風土館主催事業)
映画鑑賞会2本立
「耳をすませば・花より男子」
午前の部 10:00~13:10
午後の部 13:30~16:40
夜の部 17:00~20:10
入場/特別割引券 大人 1,000円
高校生以下 800円
当日 大人 1,200円
高校生以下 1,000円
※特別割引券1枚で3名様まで有効となります。
- 11・27(月) 七音会ピアノ練習会 入場/関係者 13:30~17:00
- 11・30(木) 年金受給者講習会 入場/関係者 9:30~15:30
- 12・3(日) 第10回野呂早苗ピアノ発表会 入場/自由 16:00~18:30
※詳しいことは、ファルコン (☎62-3311) まで



▶特別割引券発売所▶
●ファルコン ●津谷書店 ●日活書店

中央公民館

- 〔11月ロビー展〕 上関恵治写真展
- 11・18(土)~20(月) 鷹巣絵画クラブ展
- 12・3(日) 第13回公民館まつりと生涯学習交流会（詳細は次号で紹介）

スポーツ

- 11・19(日) 第23回鷹巣阿仁部家庭婦人バレーボール大会 鷹巣体育館
- 11・23(木)~25(土) 県北高校新人バスケットボール大会 //
- 11・26(日) 町民卓球大会 //
- 12・1(金)~3(日) 全県高校新人剣道大会 //

第11回鷹巣阿仁広域市町村圏綱引大会

日時 12月10日(日) 10:00~競技開始
会場 鷹巣体育館

参加者募集

- ・参加資格 一般社会人で各町村に生活の根拠を有するもの、または勤務するもの、勤労学生は除く。
- ・チーム編成 1チーム選手8名~10名（ゼッケンは各チームで準備）
- ・参加料 1チーム3,000円
- ・申込先 11月20日(月)までに、申込書に記入のうえ、参加料を添えて教育委員会町民体育課 (☎62-3800) に申し込むこと。

町長日誌

10/16~31

16日(月) サテライト計画の第二号施設として完成した『鷹巣町地域福祉センター』の修祓式に出席、デイサービス業務をはじめとする福祉機能の充実を目指したセンターの竣工を関係者とともに祝った。

16日(月) 平成6、7年度文部省指定の鷹巣小学校『生活科公開研究会』開会式に出席。

17日(火) 町長杯争奪ゲートボール大会開会式に出席。

17日(火) 秋田県遺族連合会の『鹿角・大館・北秋田戦没者遺族地方大会』開会式に出席。

18日(水) もろびこども園開園記念『第2回地域療育を考える集い』開会式に出席。

20日(金) 大館能代空港ターミナルビル(株)設立発起人会に出席。

20日(金) 鷹巣町議会『福祉及び関連予算の執行に関わる調査特別委員会』(100条委員会)の調査結果の議会承認に対して、県知事に審査の申し入れをし、3月議会の100条委員会報告に対する議決の取り消しに関して知事の裁定を求めた。

21日(土) 町村合併40周年記念事業『文化講演会並びに歴史シンポジウム』に出席。

22日(日) 百歳会テニスクラブの『ボール納め町長杯大会』開会式に出席。

22日(日) 綴子前野町の創立20周年記念式典に出席。

22日(日) 鷹巣中央小学校創立120周年記念式典に出席。

29日(日) 首都圏在住の鷹巣町出身者で組織する『東京鷹巣会』の総会に出席、約二百名の参加者とともに同郷のきずなを再認識しふるさと談議に花を咲かせた。

31日(火) 『鷹巣町文化をすすめる会』に出席、成田節治会長から教育文化の振興に向けた提言などを網羅した答申書を受領した。

＝第8回東京鷹巣会＝

ふるさとなつかしみ、

なごやかに交流



「ふるさと鷹巣町の発展は私共の誇り」と
あいさつする木村庄一会長

平成七年度、第八回東京鷹巣会が十月二十九日、東京都江東区の「ホテルイースト21東京」で会員約二百人余りが参加して開催されました。町からは町長や議長、商工会長などのほか、綴子下町の獅子踊り一行も参加して郷土芸能を披露、参加者はなつかしいふるさと談議や開港間近の大館能代空港の話題に花を咲かせ、楽しい一日を過ごしました。

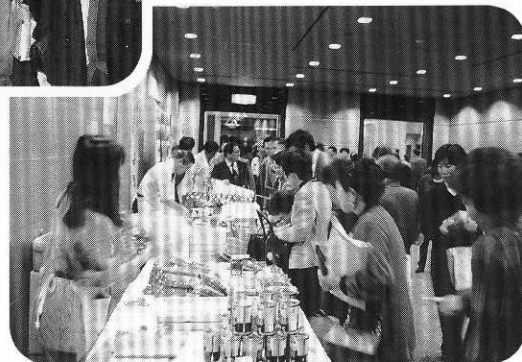
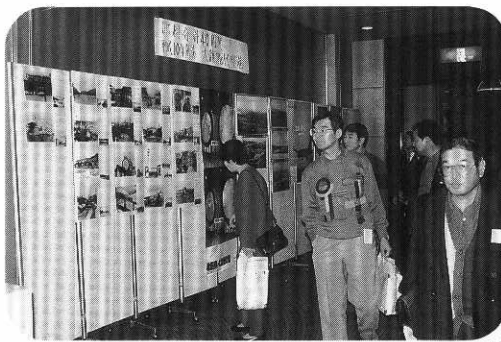
会場では、町が空港展やなつかし写真展のコーナーを設けたほか、町物産協会が特産品の出店販売も行い喜ばれましたが、特に町民バーベキュー交流会でも好評だった「たかのす牛」の焼き肉試食コーナーは大盛況で、参加した人たちは口々に「とてもおいしい!!」を連発していました。



▲ どのテーブルでもなつかしい話や空港の話題でもちぎりでした。

◀ 町村合併40周年なつかし写真展と大館能代空港展のコーナーは大変喜ばれました。

▼ 町の特産品とたかのす牛の試食販売コーナーは大盛況!



◀ 綴子下町の「獅子踊り」に大拍手!!

更けゆく秋に みんなの文化 みんなの産業



11・2(木)～11・5(日) 会場：ファルコン、中央公民館、子供風土記館、交流センター、鷹巣小学校

第27回 鷹巣町文化祭・第32回 小・中学校の部



△小・中学校学芸発表会のオープニングは、参加者全員で「夢の宇宙船」を合唱

第二十七回鷹巣町文化祭と第十二回鷹巣町産業祭が、十一月二日（産業祭は三日）から五日まで盛大に開催されました。ファルコンを会場に行われた小・中学校の学芸発表会は、すばらしい演奏が相次ぎ、邦雅祭や各会場の作品展示も力作ぞろいで、大勢の人たちで賑わいました。また、体育館で行われた産業祭も活気あふれる展示と多彩な催しで人気を呼びました。（芸術文化奨励賞、農産物生活工夫展受賞者は次号で紹介します）

▽今年も家族連れで大人気の“手づくり村”



△音楽祭では、各コーラスグループが素敵なハーモニーを披露

◁邦雅祭で舞踊を披露した花柳流登巴栄会のみなさん



手づくり村で「ちぎり絵」に挑戦する子どもたち



日本画展ではじっくり見入る人が多いようでした



生涯学習展は力作ぞろいでした



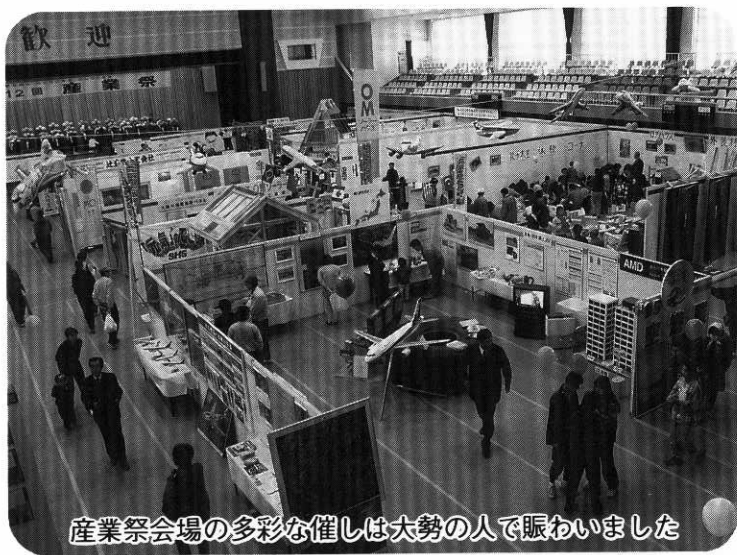
ちびっ子将棋大会での熱戦



ブライアンさんや各国の人たちとの国際交流広場のふれあいが人気を呼んだ



子供風土記館では神成清先生など中央の作品を展示



産業祭会場の多彩な催しは大勢の人で賑わいました



△ 農産物の展示では、農家の方々が真剣に見入っていました



間伐材での体験コーナーは子どもたちに大人気

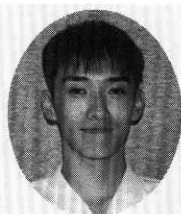


会場内の食堂也大盛況!

第12回鷹巣町産業祭

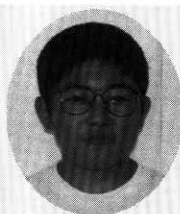
100人が綴る「合併当時の思い出」と 「未来たかのすへのメッセージ」 ②

住民参加のまちづくり、を支えるのは、鷹巣町を心から愛する町民の皆さんです。町村合併40周年にあたって、小学生からお年寄りまで、「生き生き町民100人」が合併当時をふりかえり、未来たかのすへ熱いメッセージを贈ってくれましたので、前号にひきつづき紹介します。



坊沢大町
桜井裕也さん
(十五歳)

この七月に祖母が亡くなった。その八十八才の生涯を終えるには、一年半の介護も必要とした。幸い、家庭介護ができたので家族に囲まれている祖母は幸せそうだった。ところで、この私自身ももしかしたら介護の手を必要とするであろう二十一世紀に、この町はどんな環境になっている事だろう。急速に進む高齢化社会に対応し、福祉の町としていち早く立ち上がったこの町に、「住んでいてよかった」と誰もが思える日が、一日も早く来てほしいと思う。



前山
能谷章吾さん
(十一歳)

ぼくは大人になってもこの町に住んでいたいと思う。今はあまり活気があるとは思えないけど、ぼくが高校に入るころは空港もできるし、もっと便利になっていると思う。これからは、県外から大勢人が来てくれる町でなければいけないと思う。鷹巣は、自然が多い所なので自然をこわさないでみんなが楽しめるたとえば、岩手県の小岩井農場や北海道のふら野のラベンダー園のように何回行ってもまた行きたくなるような楽しい場所を作るといいなあとと思う。夢を実現するには時間がかかるが、今から考えていたら大人になった時役立つかもしれないと思う。



前野団地
柏木一成さん
(十二歳)

あと三年で、鷹巣町にも大館能代空港ができます。僕は、それまでにプロ野球ができる位の大きな球場ができるようになってほしいです。いろいろなプロ野球チームがきて、町もにぎやかになると思います。また、冬には、県外や、外国からたくさんの人達がスキーに来て、いろいろな大会ができるようになってほしいと思います。そして、どんどん町が開けていってスポーツのさかんな鷹巣町になってほしいです。

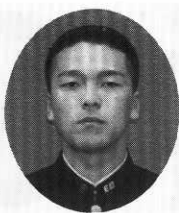
未来たかのすへのメッセージ

脇神 佐藤 寛 才さん (十一歳)



ぼくは、十才のとき飛行機に乗ってオーストラリアまでいってきました。そのとき秋田空港までの道のりが遠かったが、もうすぐ家の近くにも空港ができるので、ずいぶん便利になるんだなあと思いました。でも、鷹巣町には大きなデパートがないので、空港ができるころには、なんでもあるような店や、その近くには総合病院と老人ホームがあり、広い公園などができてたくさんの人達が楽しく生活する、活気あふれる町になってほしいと思います。

坊山 佐藤 則 志さん (十八歳)



自然に恵まれ四季折々の季節感溢れる我が鷹巣町に大館能代空港が開港することを、うれしく思います。私は四人兄弟の末っ子ですが、兄達が皆県外に就職してしまつたため、高校卒業後は町内に就職し、家業を継ぎたいと思っています。我が町は、田畑や森林など自然は豊かですが、若者が楽しめるような施設が少ないように思います。もっと自然を生かした公園やスポーツ施設を整備して、若者にも魅力あるまちづくりを進めてほしいと思います。

七日市本郷 佐藤 ひなたさん (十一歳)



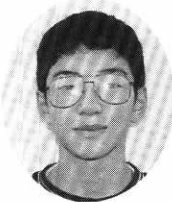
私からの鷹巣町へのメッセージは、いつまでも、お年よりを大切にし、心やさしい人たちであふれる町にし、町に来た人たちにも、いい町だなあと、思われる町になつてほしいです。それに、なにも都会のようにならなくてもいいのです。事件がおこらない町、緑をいっぱい残してゴミひとつ落ちていないきれいな町にしてほしいです。これが私からのメッセージです。私は、JRCにはいって、ボランティアの勉強をしています。町の役にたつように、努力したいと思っています。

堂ヶ岱 柴田 有香子さん (十一歳)



二十一世紀の鷹巣町は、飛行機も飛んでいて、大型店もたくさん建ち、観光客も増え、町もにぎやかになっていと思う。今の中央公園は遊ぶ場所が少なく、子供達が楽しむ物もあまりないので、もっと大きな遊園地がほしい。また、高齢化が進んでも、若者がいなくなるのではなく、他から集まつて来る町になってほしい。それには、職場が多くあつた方がよい。そうすれば、町にもつと活気が出ると思う。お年寄りや若い人達の交流を深め、楽しく過ごさせてあげたい。

今泉 武田 幹 也さん (十三歳)



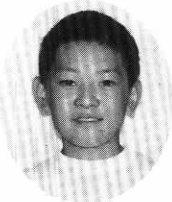
ぼくが生まれる二十七年前に鷹巣が町村合併したという事は、鷹巣町になってからそんなに古くないんだなあと感じた。鷹巣町の今一番の関心はやっぱり空港工事だ。空港ができることによりどんな利点があるか考えた時、空の玄関である空港を通して、各都市からぼくたちの町へ、またこの町から日本各地へ、いろいろな物の往来、さまざまな人達との交流、また文化の交流など、限りなく可能性が広がってくる。ぼくが大人になったころには鷹巣はどんな町になっているだろうか。躍進する鷹巣であってほしい。

あけぼの町 田村 知 大さん (十一歳)



ぼくは、平成十年十月に開港予定の大館能代空港が早くできればいいと思います。ぼくはまだ一度も飛行機に乗ることがないので一番機に乗りたいです。いままでも東京に行くのに何時間もかかっていたのが約一時間で行けるなんてすごいことだと思います。遠方からたくさんの人々が鷹巣町を訪れて、鷹巣町の良さを知ってもらえればいいと思います。都会の子供たちと交流し、自然豊かな鷹巣を紹介したいです。逆にぼく達も東京に行つていろいろなものを見てみたいです。

舟見町 千葉 耕 太さん (十二歳)



ぼくは、町村が合併してから四十周年になるなんてびっくりした。最初は、別々だった町や村が、一つになつたのも初めて知つた。未来の鷹巣については、今、大館能代空港もつくつていいるし、ほかにもたぶんいろいろな物ができてきつといいまちになって、「鷹巣市」にもなるのではないかと思う。鷹巣町には、米代川や緑があるから、ほかの所からもたくさん人がきて、とてもにぎやかになると思う。鷹巣町には大太鼓もあるから、ぼくが大人になるころには、すごい町になっているだろう。

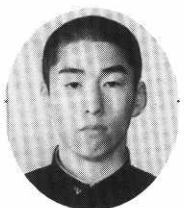
未来たかのすへのメッセージ

鷹巣字下家下
津谷佳子さん
(十七歳)



中学生の時、秋田選抜バレーのメンバーに選ばれ高校でもバレーを続けています。二年生の全県総体準決勝で思わぬケガで入院をし、初めてリハビリを経験しました。理学療法士に対してすごく興味をもち、自分が経験や勉強した事で体の不自由な人の役に立てたらいいなと思いました。ケガをするまで福祉に関心のない私でしたが、病院という所で改めて福祉の重要さがわかりました。理学療法士になるのが私の夢です。もっとたくさんの人達に福祉の大切さと必要さを認識してほしい。健康でスポーツ好きな人々の住む鷹巣町であってほしいと思います。

坊沢大町
津谷亮佑さん
(十五歳)



二十一世紀、それは大館能代空港も鷹巣町の魅力の一つとして定着している頃だと思います。住みよいこの町は空港ができることにより、また一歩理想の町に近づいたのだと思います。しかし、ただ人を運ぶのみの空港では、あまり意味のない単なる自然破壊だと思います。鷹巣町に活を入れるために必要なことは、人だけを運ぶ空港ではなく、「文化や時代を運ぶ空港」でなくてはならないと思います。近い将来、鷹巣町が活気にあふれたすばらしい町になっていくことを願っています。

七日市本郷
長岐修さん
(十七歳)



鷹巣町から世界へ！僕が鷹巣町に空港ができるかもしれないと聞いたのは中学一年の頃だと思います。その頃はライト兄弟の「大空を飛んでみたい」という、激しい情熱を燃やしてそれを実現させた物語に感動していた頃で、今空港の工事が着々と進んでいるのを目のあたりにみて、その当時の思いがよみがえり、身震いさえ感じます。僕も将来は父の後を継ぎ鷹巣町の住民となって魅力あふれる町づくりにがんばりたいと思います。もうすぐ来る二十一世紀に向けて、国際性のある豊かな鷹巣町に発展していくことを願っています。

七日市本郷
長岐浩仁さん
(十五歳)



最近楽しみながら競技するスポーツが増えてきています。「3オン3ストリートバスケット」「ボーリング」など……これからも増え続ける競技に対応できるスポーツ施設は鷹巣にあるでしょうか。また、平成十九年には秋田県で国体の開催が決定されました。この事は中学生としてこれからスポーツ文化を通して我が郷土を紹介する大変良い機会でもあると思います。そのためにも様々な競技が出来る施設や合宿施設などを充実させ、秋田県のスポーツの拠点となるような町づくりを期待します。

緑ヶ丘
長崎弥生さん
(十一歳)



平成十年には、鷹巣町にも空港ができます。空港ができれば、私の家の近くを飛行機が飛ぶかもしれません。一度その飛行機に乗って、空から鷹巣町をながめてみたいですね。そして、私は何になりたいかまだ決まっていますが、鷹巣町をはなれて外から町の様子を見てみたいです。そして、また、この町にもどって来たいなあと思える町になってほしいと思います。

今泉
成田明子さん
(十八歳)



二十一世紀になって、町の基幹産業である農業はスピードが売りもののフライト農業が盛んになり、魅力ある誘致企業の立地、町から直行の外国旅行、また、東京デイズニerlandに負けない位の大遊園地、四季に合った遊び、観桜、ゴルフ、釣り、夏スキー、冬スキー等、こんな町を夢見たい。また、福祉の町としてボランティア活動もさらに大きく育てて、安心して住める優しい町にしたい。そして、心豊かな町民として私は生きていきたい。

太田
成田美子さん
(十一歳)



私は、いつもいろいろなコンサートにいきたかったけど、遠くていきませんでした。いろいろなコンサートなどができる大きなステージと、客席がたくさんあるところがあつたらいいなあとおもいます。そこには、タレントなどの人がたくさんきて、コンサートなどをやってほしいと思います。鷹巣は、きれいなところなので、そのような大きな体育館はもったいないけど、でもコンサートができる場所がほしいです。コンサートを鷹巣町でやってもらえる様なりつばな体育館を夢見ています。

堂ヶ岱
能登谷郁子さん
(十五歳)



今、私が「未来の鷹巣町」に期待していることといえば、まず、大館能代空港ができることよって、東京など都会の文化がより身近になり、私達若者にとっても、魅力のある町になっていくことです。それと、これからますます高齢化が進みますが、私達もいつかは年老いていくのですから、お年寄りにとっていつまでも住みやすくやさしい町であってほしいと思います。そのために、私達も今から心掛けていくことが必要だと思います。

未来たかのすへのメッセージ

二本杉
畠山卓也さん
(十四歳)



平成十年には、大館能代空港が完成します。そうすれば、今まで以上に人の往来が多くなり、経済や産業などがよくなるので、今までもよきと楽に過ごすことができるでしょう。しかし、そこで自然を壊してほしくありません。いくら便利になったとしても、それは表面的なことにはすぎないと思います。何も考えないでただ開発するのはなく、人々の心の中のことを大事にしながら発展して欲しいと思います。

黒森
畠山洋介さん
(十一歳)



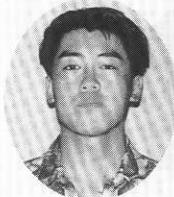
多くの祖母は働き者ですが、腰を痛めて、遠い青森の温泉に泊りように出かけています。だから竜森の近くで、もみじがひらひらと落ちてくるような所に温泉があればいいと思います。また、大館能代空港が完成すれば父とゴルフデンウイークに出かける約束があります。ぼくは、ヘリコプター、タクシーを飛ばして、いろんな所へ気軽に出かけられたらいいなあと思います。そして、いつまでも平和で、道ばたは、花であふれ何よりも鷹巣町が明るい町であってほしいと思います。

摩当
福原千賀子さん
(十三歳)



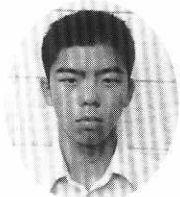
私は、スポーツなど体を動かすことが好きです。鷹巣にも立派な競技場がありますが、もっと楽しみながら出来る所、たとえば、岩手県のブータロ村の様な所があればいいと思います。また、平成十年には、空港も出来て、鷹巣はこれからどんどん発展して行くと思います。私達が大人になった頃には、デパートが出来て、いろんな会社が出来て、ビルがたくさん建つといいなあ。そして地下鉄も出来て、自転車で行かなくても、簡単に町に出かける事が出来ると最高だと思います。

太田
藤嶋智一さん
(十七歳)



未来の鷹巣について最も大きな期待を寄せるものと言えば、大館能代空港の開港だとぼくは思う。空港が開港されれば、きっと多くの県内、外の人が鷹巣を訪れるだろう。綴子大太鼓や福祉活動の盛んな所としてとても立派な町であり、僕は、鷹巣町は秋田県でも大きな可能性を持つ市町村の一つとして誇りに思っている。空港のできる町として、それを十分に生かし、我々若者にとってもスポーツや観光、イベント開催など、さらに魅力ある鷹巣町になっていくことを期待しています。

宮前町
本間次郎さん
(十六歳)



私が社会人になった時には空港はすでに完成していると思うので、秋田自動車道と碓ヶ関インターをつなげて高速道路ができたらいなと思います。それと、陸上競技場の観客席をもっと増やしたり、サブトラック設備なども観戦できるようになれたらうれしいです。あとは、中央公園はとてきれいでいい所だと思うのでいろいろなイベントをやるなどして、もっと多くの人達に知ってもらいたいと思います。

花園町
亀山純さん
(十四歳)



二十一世紀になろうとしている今、僕は『未来の鷹巣』に三つの期待をしたいと思う。一つ目は、福祉の町として子供から老人まで、住みやすい町づくりをしてほしい。二つ目は、平成十年開港予定の『大館能代空港』の活用をもっと工夫して、県外各地の人々が『仕事』として鷹巣町に働きにくるなど、工業も含め発展できるようにしてほしい。最後の三つ目は、何年、何十年たっても明るくそして自然の豊かな今までの鷹巣町であってほしいと思う。僕はこの鷹巣町が好きです。町村合併四十年とともに二十一世紀を迎えようとしている鷹巣町をこれからも大事に守っていきけるようにがんばりたいです。

糠沢
今川裕子さん
(十七歳)



鷹巣町が合併してできたということを私は最近まで知らずに過ごしてきた。合併後四十年の歴史の中で、生まれ育ってきた私は今十七歳。昔のことを直接知ることはできないが、身近かなところでも、少しずつ変化が起きているのを感じている。最もその勢いを感じるのには、『空港』だ。この町を訪れる人も多くなるだろう。この町をアピールする、印象的ななにかが欲しいとも思う。しかし、それはあくまで鷹巣町の外見を意識するからではないだろうか。私の本当の気持ちは、『鷹巣町は鷹巣町だ』ということだ。いつも帰ってこられる町、帰りたいと思う町、町らしさの失われることのない、私の好きな町の『一心』を守りたい。素朴で温かい人たちが互いに支え合って、小さいながら文化の灯を大切にしよう。今、私の心の中には空港ができるという意識からくる緊張感がある。これから数十年、私達らしい美しい発展を担うのは、私達若者であることを胸に刻んで生きたい。

未来たかのすへのメッセージ

東横町 佐藤 史朗さん (三十四歳)



子供の頃、近所に蔵元があった。「金鷹」という地酒を造っていた。父親に連れられて、蔵のタンクのまわりや雪が積もった長い屋根で遊びまわった記憶がある。仕事柄、鷹巣の地酒はどれ?とよく聞かれるが、今鷹巣にはお蔵さんはありませんので...といつも寂しさを感しながら答えている。『地酒』それは「故郷の駅舎の灯」の如く思える。高度成長期の大量生産、大量消費から無名の地方酒に冬の時代が到来し、心ある小さな蔵が次々と姿を消した。しかしその町がいかに繁栄しようと駅舎の灯はやはり懐かしい。当然のことながら当時の「金鷹」の味は知るよしもない。鷹巣町民として、そして一介の酒徒として、父親たちの愛したかつての「金鷹」を味わいたいと思うこの頃です。

岩脇 岩本 綾子さん (三十八歳)



私は、自分の生まれ育った七日市が好きである。そして、子ども達と過ごせる仕事が好きである。先日、空港ができたらどこに行きたいか、何を持って来たいか、子ども達に聞いて見たところ、「デイズニールランドに行つて、ミッキーを連れてくるんだ!」という夢のある話が返ってきた。子どもって何て素晴らしいのだからと改めて感動させられた。私たち大人も、夢を持って、空港が完成するのを待ちたいものである。そして、一人ひとりが飛行機でいろんな分野の夢を連れてこれたら、鷹巣町はもっともっと発展していくであろうと思う。よく見て、よく聞いて、思ったことは話せるような若者達が、これからの鷹巣に増えて、生まれ育った町を愛してほしいと願っている。

大堤 三澤 洋さん (二十六歳)



鷹巣町の合併四十年、これまで考えたこともなく正直な所他人事のように感じている。自分は「何をして来たのだろう」とか「これから何をしよう」とかを思うこととはあっても、この町に住む(住んで来た)人達がどんな歴史を刻み、何を思い日々を暮してきたか、全く興味もないのが本音。身近な人に迷惑をかけないようにしよう...というぐらいのものだろうか。しかし、これからの隣人関係は町や国の境を越えて遠くの人まで差す様になるだろうと想像できる。今後この町が隣人達との間でどんな役割を持ち、どう付き合っていくのか、この町で年をとっていく人間として考えて行きたい。

緑ヶ丘 鎌田 博子さん (二十四歳)



人にとって最も必要なものは精神的な心の支えだと思ふ。そして「人」を守ることができるとはやはり「人」である。町は福祉のまちづくりに取り組んでいるが、体の不自由な人や高齢者を見ても見ぬふりをする町民が多すぎると思う。全町民の幸福を心から願い、安心して生活できる町となるようにさらなる努力が必要と思う。また、将来の担い手となる子供達への福祉の啓蒙に力を入れることを忘れてはいけない。

妹尾館 佐藤 淳一さん (二十八歳)



飛行機が我が町鷹巣と都会を飛び交い、多くの人達が往来する。空港に隣接した緑豊かな工業団地には最先端企業が立ち並び、たくさんの人達が笑顔で、忙しく働く。また、ある休日、整備された中央公園のスポーツ・レクリエーションゾーンでは、子供達が元気に動き回り、お年寄り達は、大きくなった桜の木陰に腰をおろし、仲間と語り合う。二十一世紀の鷹巣町、こんな町であってほしい。

小田 佐藤 忠義さん (三十九歳)



平成十年に空港が開港すると東京まで一時間、同時に外国もグッと身近になります。東京にいた頃はよく海外旅行をしました。特に一人旅はその国の人と接することが出来ます。実際日本で生活する外国人はかなり苦勞しているようです。そこで、空港のある町の利点を生かして町民が積極的に外国を訪れ、国際感覚を養い、また、外国人を受け入れる環境づくりをするなど国際化を推進し、外国人や若者にとって居心地の良い町づくりをすることによって未来が開けてくると思えます。

坊沢上町 佐藤 浩信さん (三十二歳)



今後の鷹巣町は、大館能代空港の開港に伴い、都市との間で人、物、情報、産業、文化の交流により、振興発展していくものと思う。さらに高規格幹線道路等の整備により高速交通体系が確立され、定住人口も増加すると思う。また、全国平均を上回る高齢化問題も福祉施策の充実により、生きがいのもてるものとなるだろう。全町民が助け合い、尊重し合い、生き生き生活できる町になっていると信じて止まない。

未来たかのすへのメッセージ

今泉 藤内哲哉さん
(三十四歳)



四十年の歴史を踏まえ、一つの区切りとしてこれからの鷹巣町を考えると、まず、空港建設という大事業を成功させることが未来の鷹巣町を象徴することのように思われます。今議論されているように、単に開港ではなく、施設設備とその活用方法等が最も重要であると思います。「内陸の、また北東北の中心的な位置鷹巣町」という観点から、敷かれたレールの上で議論するのではなく、もっと鷹巣町独自の奇想天外な発想を県内外に示していく事が役目ではないかと感じます。町民の一人として、それらを考え期待し、益々の発展を願いたいと思います。

綴子上町 高橋智子さん
(二十四歳)



合併四十周年、おめでとうございます。氷河期と呼ばれる就職難の今日、「Aターン」を看板にうたつても受け皿の無いのが現実の様です。この先、十年、二十年後の周年記念の際には農業後継者(商工業者も)が安定した農業を営み、また、鷹巣町で生れ育った私達の後継者全員が地元に残って働いていける職場がたくさんある、魅力のあるまちになっていくことを望みます。

坊沢大町 津谷章子さん
(二十六歳)



鷹巣は、空港が出来ることで大きく変わろうとしています。将来は仕事も増え、いろいろな施設も充実し、県北の中心地としてさらに発展するでしょう。私は初めて空港建設現場を見た時、その大きさに驚き将来への夢が一段とふくらみました。これから何十年先も、子供から老人まで、皆が夢と希望を持ち続けられる、活気ある鷹巣町であることを期待します。

前山 戸澤麻紀さん
(二十三歳)



「進化」の名の通り、各界の目を見張る発達には頭の下がる思いです。しかし、その陰には大きな損失もあつた事でしょう。人間がより快適な生活を追い続ける反面、失う物も確実にあります。旧文化や郷土文化、広大な自然も必要不可欠なものであり、決して失いたくない偉大な財産でもあります。地球上に住む生きものとして、すべてが平和で安心して暮らせる、誇りの持てる町に一步でも近づけるよう、一人ひとりの心がけと惜しまない努力が大事ではないでしょうか。二十一世紀(未来)は自分達の手で切り開くのです。

中畑 長岐正人さん
(三十九歳)



農業従事者の立場で将来を展望すると、特に「米」事情は非常に厳しい事態が予想される。流通規制緩和に伴う自主流通米価格形成センターへの大手商社の参入、周年需要八百万トンに対し、超過米と輸入米二百三十五万七千トンへの対応、対日本の貿易赤字に苦しむ米国の関税率を含む攻勢などで、'96年以降は下落傾向、'99年以降は安値安定との見方が一般的である。当町でも、このような内外圧に耐えしのげる農業を確立するために、一層のコスト低減や、一人で一貫管理が可能な技術開発等、今から足堅めが必要であり、猶予はない。

藤株 畠山義直さん
(二十六歳)



現在の鷹巣町は、空港と福祉の町として前進しつつあるわけですが、開港後この空港をどのようにして町発展に結びつけて行くかが大きな課題となっていると思います。農業を専業としている者の一人として、フライト農業について考えて見ると、飛行機利用の作物には限りがあるが、その中でも軽量作物である花卉(き)類は、鷹巣町でも近年作付面積が増えつつあります。平成十年の開港に向け、私達農家も「鷹巣町の花」として恥じない物を作り関東方面に、飛行機で出荷したいと考えています。

太田 藤嶋和政さん
(三十八歳)



今、鷹巣町からまさに二十一世紀に向けて飛びたつたかのように、飛行機が飛びたとうとしています。我が町は、県北の中心地、そして、リーダーとしての町づくりをしていかななくてはいけないと思います。福祉の町、スポーツの町、どんな町でもいいと思います。とにかく、町に若者が定住できて、町中が子供から青年・老人までにぎやかに行き交える町づくりを期待し、さらに人口十万人の町になることを夢みていたいと思います。

太田 松尾貴之さん
(二十一歳)



町村合併四十年、私にはピンときませんが、四十年周年記念という事で、いろいろなイベントが開かれています。平成十年には空港もでき、外国にもすぐ行けるなど他の交流が盛んになると思います。でも、今の町では少し寂しい気がします。町の将来の発展のため、活性化のためにも大型店や、レジャー施設を増やして、若い人達が集まってくるよう、賑わいのある町づくりを進めてほしいと思います。

未来たかのすへのメッセージ

摩当

浅野加代子さん
(四十二歳)



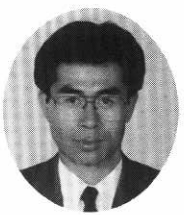
町の発展は、町民の大きな願いです。飛行場が出来る事によって道路も整備され、生活も便利になると喜んでおります。より多くの人を鷹巣町に集めるためには、就職難の現在、大変難しいことですが、UターンやAターンの優秀な人材を引きつける魅力ある職場を確保すること、また、家族で楽しめるレジャー施設の整備、さらに地域の商店と共存した総合デパートが出来る事によって、大きく商業圏が拡大され、活気に満ちた鷹巣町になると思います。鷹巣町の発展を大いに楽しみにしております。

坊沢羽立
小林 進さん
(四十二歳)



合併後四十年になり、今後の鷹巣町の未来を思うと、今まで以上に複合的な産業構造の町になって欲しいと思う。鷹巣にとっては農業が大きなウエイトを占めてきたし、今後も占めると思うが、これからは他の産業もこれまで以上に発展して大きなウエイトを占めるようになるだろう。もうすぐ空港も出来ようとしているが、空港を大いに活用しながらも、陸と空の交通手段をフルに活用して一層発展する産業のある町になって欲しい。たくさんの方がいろいろな産業の中で働き、住んでいていいなあと思える町になることを望んでいます。

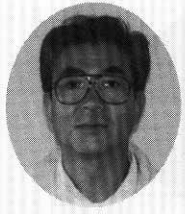
宮前町
佐藤 英樹さん
(四十三歳)



昨年、大館能代空港整備事業を視察する機会を得ることができた。緩衝緑地帯を有効活用するために、スキー関係者の専門的意見を聞きたいという趣旨であった。工事の進捗状況の説明に耳を傾けながら、想像を絶する規模の大きさに度肝を抜かれた。この空港事業を契機に地方拠点都市の中核として、より飛躍し未来にはばたく人材育成に力を注いで欲しいと考えたものだ。医療福祉・教育の充実は勿論、地方から都会に向けた文化や情報の発信基地をめざして、町民として何をすべきか議論して行きたいものである。

小森

佐藤 均さん
(四十三歳)



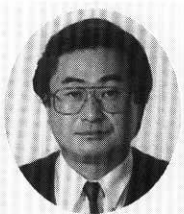
未来の鷹巣町をつくるのは、今の子供達です。PTA活動にたずさわって考えさせられることは、この子供達は将来、この鷹巣町に何人残るだろうかという事です。もう少し空港が出来ます。そのことで若者達の仕事場が増えることを期待しています。これからの高齢化社会を支えていくのは子供達です。その子供達を育てるのは、行政、家族、そして地域の連携だと思えます。そして、この町の良さを伝え、歴史とその過程を大切にしていきたいと思えます。戦後生まれの一人として、世界の平和を願って！

湯車
佐藤 美吉さん
(四十一歳)



私は、居住地が空港用地となったため、住み慣れた所から移転しました。淋しい気持ちもありますが、何よりも地域の悲願であった空港建設のためと思い協力しました。これを機会に空港を利用して観光や、若い人が集まる明るい職場づくりに力を注ぎ、それに、お年寄りや子供が安心して住める町づくりをしてほしいと願っています。例えば、空港周辺の温泉開発、娯楽施設とか町民が楽しめる広場、老人ホームの建設、町民が働ける空港関連施設などもたくさん設けてほしいと思います。「空港の町鷹巣」の限らない発展を期待しています。

中屋敷
千葉 昌弘さん
(四十三歳)



平成十七年の春、大館能代空港にジャンボジェット機が着陸した。総勢五百八十四名がタラップを降りて来たのだ。空港には大型バスが十数台待機していて手際良く乗車し、一路文化センターにむかった。何を隠そう、今日こそ第一回世界高齢者対策会議の日であった。どうして日本の田舎の鷹巣町が開催地になったのか、それは世界的に老人と福祉対策がどの国のどの都市よりも進んでいたからなのであった。参加者の中には元アメリカ大統領のクリントン氏の顔もあった。私は何度も目を手でこすったが「夢」ではなかった。

未来たかのすへのメッセージ

田子ヶ沢

津谷 富蔵さん
(五十歳)



合併当時の私は、小学三年生だったと思います。今のグリーンメイトジャパンの場所に学校がありました。校庭には、二宮金次郎の像があり、学校へ登下校の際は、先輩達に面倒みられながら、四十分かけて通った思い出があります。今日の車社会には縁のなかった時代でしたから、交通事故もほとんどなかったと思います。道路網の整備（町道・県道）をはじめ、各種の生活基盤の確保によって、我が町も未来への活性化の道が開けることでしよう。町村合併四十周年を契機に、さらなる発展を期待します。

坊沢大町
戸嶋 正さん
(四十六歳)



先日、関西に住む知人から空港と福祉に対する町の熱意が伝わる記事を読んだと便りがありました。空港は毎日たくさんの重車両が稼働し、三年後の開港に向けて々と工事が進んでいます。福祉についてみると、今日、他町村の施設に入居している人は何人いるでしょうか。また、入居したくとも色々な規制等で入居出来ずに過ごしている人も多いと思います。今後さらに高齢化が進むものと予想されます。二十一世紀に向け、福祉施設を充実させ、安心して過ごせるやさしさと潤いのあるまちづくりを期待しています。

坊沢新屋敷町
戸嶋 延廣さん
(四十一歳)



いまから十年前の昭和六十年には、この町に空港が出来るなどと思っている人はほとんどいなかったに違いありません。なにがこれを可能にしたのか。一言でいえば「なにがなんでも」という県北住民の一致した狂おしいほどの悲願が成せる業であった。二十一世紀の扉を開こうとしている今、この町に課せられているもう一つの課題として「福祉」があるが、これについては、まだ空港のときにはあったあの全町民一丸となった方法論についての合意が得られていない。「断じて行えば鬼神もこれを避く」のだが。

七日市本郷

長岐 琢未さん
(四十歳)



未来を想像した場合、遠い将来まではどうしても見当がつかない。そこで、近い将来の「未来たかのす」を展望してみると、空港が一つの転換材料になると思われる。空港ができることにより、企業の進出、または交流が考えられる。当然人口も増えるだろう。単に人口が増えるだけでは大した発展もないと思うが、違う地域の人々と広域的に交流することにより、たかのす町発展に向けた新しいアイデアが生まれるかもしれない。鷹巣町には近隣市町村の中でのリーダー的存在になることを期待する。

川口
中嶋加代子さん
(五十歳)



町は今、急速に訪れた高齢化に備え、福祉のまちづくりを進めていることは、大変結構だと思います。でも、それに次いで必要なことは、若い人が地元で定着できる職場の確保や若い人が遊べる施設を作ることではないでしょうか。家族がみんなで暮すことが理想だと思います。また、空港建設地の地元の住民として、特に期待したいことは、世界一の大太鼓や中央公園が空港利用客の観光の目玉になることです。福祉で全国的にも有名になったこの町を、町民がひとつになって売り込むべきではないでしょうか。

川口
中嶋 忠さん
(五十八歳)



町村合併により広範囲で交流でき、いろいろな人も覚えた。過疎化が進む中で空港ができるので、若者の地元定着に何としても活かさなければならぬ。町の将来を考える時心配なことは、町の基幹産業である農業の先行きである。後継者不足は勿論、二十一世紀を農家がどう生き延びていくか非常に不安である。また、空港を活用した振興策として、中央公園に歴史資料館を建設し、立ち寄る場を確保すべきと思うが、町内のすべての会合の際に、空港を活用した方策についてアイデアを出させるなどの取り組みもおもしろいと思うので提案したい。

未来たかのすへのメッセージ

材木町
成田京子さん
(四十一歳)



基本的には、この地域の人々の期待を込めて作られた「大館・能代空港」を中核として、自然を破壊することなく高速交通体系が整備された活力ある町がこの町の未来の構図だと思っています。しかし、この様なハード面での発展とともに、ソフト面での長所をさらに伸ばしていく必要があると思います。具体的には、今後ますます増える高齢者のための行き届いた福祉対策、この町の将来の担い手である子供達へのびのびと夢を抱いて暮らしていける教育や文化の充実を、心から望んでいます。

今泉
成田敏博さん
(四十二歳)



鷹巣町に空港ができると、各地から観光客が来るだろう。しかし、十和田や八幡平、森吉などに行くための通過点としないために、スキー場をもっと楽しめる内容に充実させたいと思う。リフトの設置と、冬には早くスキーが滑れるように、人工降雪機を導入し、夏にはグラススキーができるスキー場に整備してほしい。その麓には温泉ボーリングを行い、スキーのあと汗を流し、心身をリフレッシュさせる施設の併設も進めてほしいと思う。将来に大きな可能性のある鷹巣町が合併四十周年を機にさらに発展していくことを期待する。

松沢
藤本英夫さん
(五十三歳)



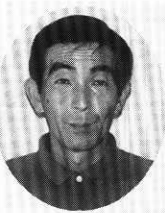
白神や十和田八幡平が益々クローズアップされてきた。世界遺産で有名になるといよいよ行って見たくなるらしい。一方、目立たないのは森吉山、けれどもその名が示すごとく人々にとってはまこと目出たき善なる山、恵み豊かな森でした。古くは秋田山とも称された名山で、尚も白神に優るブナの巨木と山岳美を誇っている。当世はやりの観光にはとても見せられない、中は自然と共に深く世の中を考える人々の為に用意しておこう。新世紀、森と共生する文明が生じたら、北のこの町からも堂々と世界に向け発信したいものだ。

綴子下町
宮野方臣さん
(五十五歳)



町村合併は、当時住民の意思よりも国や県の行政指導の名のもとに、なかば強引に進められた。綴子村の場合には、住民の多くが合併は望んでおらず、村議会もそうであったと聞いている。合併協定事項には、一、支所を置く、二、固有の財産は財産区会議により管理運営する、三、綴子村診療所は更に整備拡充する、などが銘記され、合併しなかった場合は交付金、補助金をくれないか、減らすなどというアメとムチにより進められたとも聞いている。合併後、支所においては役場固有の事務である戸籍、納税、土地台帳の整備が行われていたが、十年を経て全町一斉に廃止されてしまった。七日市の竜森地区などは役場へ一日がかりで来なければならぬような状況にもなった。このように合併により大変不便を来すことがあったことも忘れてならない。

今泉
武田響一さん
(四十四歳)



米代川の下流域にあって、阿仁部を背景に農林業が基幹となり、商や工の産業が共存してきた鷹巣。三十年代後半に始まる急激な経済成長は、この地域の社会構造も大きく変えた。豊富な物流は多面的に生活の利便性を高めた。反面生活圏も広域化して都会が地方に来て、地方が都市に訴える時でもある。都市と同様にゴミや空き缶、汚れた排水等多量の不自然な異物を排出している。何を大切にしなければ成らないだろう。先人、心。自然。土をいたわり育て作ることを思う。地方や生活環境へ多くの施設も推進されている。でも、この地域風の農業と林業の老若間交流型体験的な施設も時代の礎になるのである。同時に常に一歩進んだ考えで、ゴミを減らし資源を有効に活かす地球資源リサイクルの発信地として・・・都会では出来ないよねしろ流域の自然と共生する町「たかのす」として、後世に残すことが使命と思えてならない。

未来たかのすへのメッセージ

田中 九嶋容子さん (六十四歳)



四十年前の事になりなると記憶も薄れ、その頃を思い起こす事はたいへんむずかしいことですが、当時は終戦後十年の歳月を経ておりますが子供達のおやつも十分ではなく、テレビもようやく家庭に普及しつつある頃であったと思います。町村合併という大きな転換は、言いかえると村が永久に姿を消した時とも言えると思います。そのようなことで、私達の村でも郷土の先人の足跡を永く後世に伝えるため、当時の皆様のお骨折りにより村史を発刊しております。今日、大館能代空港が間もなく開港しようとしております。時代は二十一世紀にむけて大きく転換されます。我が町が太太鼓の轟きの如く、また、ひまわりの花のように燦々(さんさん)と輝き、農業に商工業にそして林業に県北をリードして幅広く益々活躍することを期待しています。

新舟見町 今川定雄さん (八十三歳)



空港が出来る、これを起点として東西南北に走るモノレール。八幡平十和田湖へ、八甲田、竜飛岬、寒風山と男鹿入道崎、森吉阿仁を経て角館田沢湖等へのルートが出来たら楽しいだろう。さて、寝たきりや身体不自由な方の施設も必要ですが、健康な者が長く元気でいられるための施設も欲しい。一人暮らしやお年寄り夫婦達が、気楽に集まれるところ、若者や親子共々遊べる広いドーム大浴場があり、集まった仲間ですらでも誰でも気軽に利用し、のんびり時間を過ごせる娯楽設備、福祉の町鷹巣の未来像と併せて実現できたらと夢想した。夢の夢か？

高村岳 小塚福治さん (六十四歳)



合併当時、自分と幾つも違う中学生を相手に、四苦八苦していた。その後七年間の教職を辞し農業に従事して四十年になろうとしている。その間はお世辞にも順風満帆ではなかったし、今また、新食糧法の執行で経営そのものを見直さねばならず、老後を楽しむどころではない。生きていく限り現役である。二十一世紀に向かつて、福祉も大事、空港を核とした活性化も勿論だが、当町の基幹産業である農業の振興こそ急務と思う。積雪地の不利な条件を克服して、ビニールハウス団地で生鮮野菜を周年生産することを、ライフワークとしたい。

太田 斉藤彦次郎さん (六十五歳)



鷹巣町が、世界一と誇れる太太鼓を主を「大響祭」を開催しましたが、全国一規模のイベントとして毎年開催することにより、町の活性と空港を利用した観光客の誘客が大いに期待できると思います。また、空港開港後の二十一世紀には、空港を中心に中央公園とその周辺に文化、教育、福祉などの施設が拠点的に整備され、また、若者の定住のため工業団地の開発や企業の誘致に力を注いでほしいものです。この実現には、全町一丸となって努力されるべきと考えます。若者に活力を与え魅力ある町づくりを期待いたします。

上舟木 相馬瑞郎さん (七十八歳)



大畑橋は完成、葛黒バイパスの建設も進められている。それに大規模圃場整備がブルドーザーのうなりも高く動いている。合併四十年の今日、小猿部地区も刻々と変わっていくさまに一つの感慨を覚えた。県内一の大町となり、学校も村立から町立に変わり、四方が山に囲まれた我が部落も町となって肩身の広いおもいであった。教育と福祉の町、太太鼓の里、そして農林業を中心に商工業の栄える町として、若い人の定着が切望される。大きく力強く活気づく町を期待したい。

南鷹巣 富樫忠五郎さん (七十二歳)



「福祉の町」「環境整備された町」「空港の町」と云う名にふさわしい事業が進められております。私は南鷹巣に住まいして四十四年になります。この間、南鷹巣は秋田三十景に選ばれた中央公園の入口にふさわしい町内になりました。また、中央公園に対する当局の力の入れかたも大なるものと感じます。空港が完成し、来鷹された方たちが、まず、中央公園を見て行こうといわれるような公園に、自然を損なう事なく整備していただきたいと思えます。中ノ島のキャンプ場にバンガローの建設はいかがでしょうか、一考を望みます。

前山 戸沢信利さん (六十三歳)



「あなたの故郷の特徴は」と問われると何を挙げますか。答えは難しいが、良さを挙げるとすれば自然美、産業、文化、観光、人柄の良さなど様々な分野から事柄や物が列挙されるだろう。未来の住みよい郷土の姿は空港があるだけではいけない。どう継続活用するかが大きな課題だ。私達が継承した産業や文化など地域振興のため先見の明をもって地域づくりをしなければならぬ。鷹巣町に住んでよかったと満足できるモノをつくり上げる工夫をしよう。十年後の計、百年後の計は、人物をつくるに如くはなし。

未来たかのすへのメッセージ

上町 永井 瑠璃さん (六十二歳)



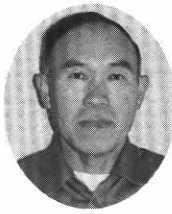
人間は所詮自由を求め、温かな愛情ある社会がほしいのです。立派な病院やホームがあっても、心のこもった温かさ、やさしさにはあり得ない。競争選別から共存共栄への価値の転換を図る時であると思う。「奪い合えば憎しみ、分かち合えば喜び」、この言葉が生きる町、美しい花、豊かな生活、活力ある産業で若者が集まる町、弱者に自分を置き換え、考えて行動する人々が育つ環境、福祉専門校のある町、夢を運ぶ空港のある町をつくらう。

舟場 中嶋 末治さん (六十七歳)



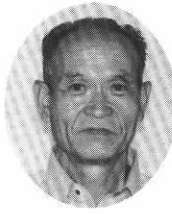
合併時の人口は二万八千人、この数が今日の鷹巣町の土台作りであった。町づくりは、行政のみでは達成出来ない。「町民総参加」の旗はすばらしい。それだけに、計画と運用に誤りがあるとは思いません。二十一世紀への飛躍台は進んでおります。行政は勿論、町民一人ひとりが現実を見極めよう。実態把握―計画―実行―反省の繰り返し、町づくりの基本であると思います。町民に定着して展げ続く魅力ある町の姿として、鷹や隼のように大空を舞う雄姿、決して夢ではないと信じております。

小ヶ田 中嶋 忠一郎さん (六十歳)



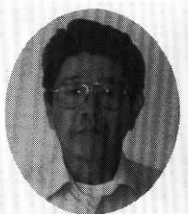
大館能代空港建設工事が順調に進み、我々空港周辺住民として、今度は空港周辺開発に深い関心と希望をもっております。まず、鷹巣町内にはJRと内陸線で駅が五ヶ所ありますが、その中で空港に一番近い駅は内陸線の小ヶ田駅だと思えます。近くに空港アクセス道東西線も着工しています。また、駅の近くに温泉掘削(ボーリング)の計画もありますので、内陸線の活性化と地域発展のためにも、将来小ヶ田駅を「空港駅」とするなど、内陸線を含めた空港周辺開発を大いに期待しています。

今泉 中村 幸雄さん (六十四歳)



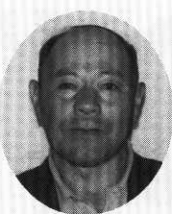
大館能代空港の開港を目前に、大きく飛躍しようとしている鷹巣町。高齢化する社会に対応して福祉の町づくりを目指し、環境と施設の整備が進められており、町民の期待大なるものがあります。この福祉の町づくりを充実発展させるため、これをサポートする若者の定住できる産業の町づくりが急務なのではないだろうか。若者が定住して子供達の叫び声が響き渡る町、これが老人の期待する町であり福祉の町づくりであると思えます。これらの実現に行政と議会が一体となって取り組むことを期待します。

坊沢上町 成田 成男さん (六十三歳)



鷹巣町をこよなく愛している者として一言、平成十年に開港予定の大館能代空港建設工事も急速に進み、そしてまた、関連する航空局職員宿舎が当町に建設されることが決まった。誠に喜ばしい事である。しかし、福祉の町づくりを宣言している当町は一部全国的に関心のある取り組みはしているが、一日も早くケア・タウン構想を実現させる事が二十一世紀に向けた新たな課題ではないでしょうか。町民が安心して生活できるためにも・・・

李岱 畠山 俊三さん (六十二歳)



近年急速に発展し飛躍する鷹巣町。「町民を主人公とする住民参加型行政」の確立を目指し、新生鷹巣町四十年を節目に、さらに誇れるまちづくりに邁進してほしいものです。大館能代空港と福祉の町鷹巣は、特に過疎や高齢化が進む中で一層の情熱を燃やし、奇抜なアイデアによる各種イベントの開催、農林業後継者が農業に魅力を持つような経営改善と先進的技術の導入を切に希望します。空港の開港、町民一人ひとりが安心して暮せる福祉のまちづくりに大いに期待をしています。

前山 藤谷 重勝さん (七十三歳)



鷹巣町に空港ができてすばらしい町が誕生するだろう。鷹巣町は福祉の町といわれるほど、今では全国的に知れ渡っています。三年後にできる空港のお客さんは鷹巣町の何かを求めてくれるでしょう。鷹巣町のシンボルとして陣場岱周辺に思い切った福祉施設と憩いの大公園をつくることです。また、大型店についても現在はっきりしていませんが、「早くできないと鷹巣町は遅れてしまう」という若年層の声も多く、早期に実現して空港の町にふさわしい町づくりを進めてほしいと思います。

舟見町 古谷 瑞穂さん (六十歳)



「鷹巣町? ああ、空港ができて活気づき、道路も整備され、観光にも方々から人が沢山きていると聞いています。町の施設等もさぞかし充実していることでしょうね」 「ええ、町づくりは人づくりから」ということで、0歳からお年寄りまでが利用し、交流ができる場として、公民館は勿論、子どものための施設、若者のための施設、老人のための施設などの総合エリアができました。私がボランティアをしている図書館も子ども室ができて、読み聞かせがしやすくなりましたし、親子連れの利用で賑わっています」

未来たかのすへのメッセージ

摩当
松尾 興市さん
(七十四歳)



農村に生まれ育った私の七十余年の人生をふりかえる時に、時代の流れの早さと変化に驚かされます。「空港ができる」それが現実となった鷹巣町は、大きく変化すると思います。そのためにも、若者の定住できる町づくりを望みます。商業、工業などの産業の発展、ショッピングセンターの実現、特産物の重点的な生産への取り組み、空港と土地を利用して都会の人達との交流を促進するなど、町に活力を与え、いつでも鷹巣町に他の地域の人達が集まって楽しんでもらえる施設の整備を考えてほしいと思います。

七日市本郷
山城 康男さん
(六十二歳)



この地域にも、フライト農業という言葉が聞かれる今日、農用地の現状は、昭和三十年代後半から四十年代の前半、小土地改良資金を利用し開田が盛んに行われ、当日七市地区の水田面積も、三五〇ヘクタールから一挙に五五〇ヘクタールへと増反され、一部区画整理も行われた。しかし、時を同じくして減反政策がとられ、農業者にとっては夢にも思わなかった事態にショックは大変大きなものであった。以来、農業者の行く末は時代の流れとともに大規模化、省力化に向かって進展しつつあるものの、現状認識しながら栽培環境の整備拡大を図ることが課題と思う。

綴子上町
堀内 イソさん
(七十三歳)



町村合併四十年。一瞬走り去る映像は、随分と長かった様でもあり、またつかの間の様でもあり、誠に複雑な気持ちになります。合併当時は、村から町へという事から、いろいろの考えの方達もおられたと思いますが、時勢はそうならざるを得なかったでしょうし、これまでの町勢の変化をよく確かめ、発展の面はますます発展させるべく、町民挙げて努力すべきであろうと思います。せっかくすばらしい計画が出来ても、個人的、感情的な事で、時間的に、また経済的に、無駄になる様な事のない様、今の町政の御努力に感謝しながら、安心して自分の町は、誇りを持って生活出来る町であることを、一町民として、心から祈って止みません。

葛黒
堀部 誠孝さん
(八十一歳)

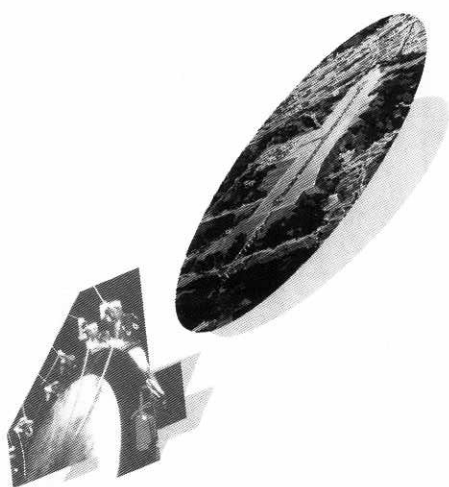


町村合併以後の竜森地区は、道路の整備をはじめ、最近では竜森コミュニティセンターの建築など種々の事業があります。そんな中で、私自身が最も印象に残る事業は、小猿部簡易水道の布設です。渇水期の飲料水の確保などの悩みを解消したばかりではなく、与助峠片逸沢の造林地に古くからある湧水で、関係集落が大事に守ってきたものを水源として水道施設を建て、我々に無菌で衛生的な飲料水を供給してくれました。役場の担当者が非常に熱心に指導してくださったことはたいへん有り難く、感謝しています。

前山
藤田 紀義さん
(六十五歳)



町が基本構想審議会に提示した、新総合発展計画(案)のなかに、町の将来像として、「高齢者会をリードし、健康で生き生きとした町を目指し、総合的な施設整備とマナーの強化などによる在宅福祉の充実を図る」としているが、全く賛成である。家族、地域社会が大きく変わり、高齢者、身障者の家族介護はもはや個人の限界を越えており、国、自治体の責任による介護制度の確立が急がねばならないと思うからである。高齢者福祉には、入所施設、在宅福祉、地域医療、地域ネットワーク、財源等々、困難な問題が多いが、町と住民が一体となり、いつでも、誰でも安心して老後を送れるわが町づくりにも少しもお役にたちたいと思う。





セントポーリア

健康広場



福祉保健課からのお知らせ

新しくおじいさん・おばあさんになられる方へ 子育て準備講座に参加しませんか

- 対象 初めてののお孫さんをお迎えになるおじいさん・おばあさん
 - 日時 十一月二十八日(火)・午前九時三十分～正午
 - 場所 中央公民館
 - 内容
 - ・秋田県の母子保健対策について
 - ・講話「妊娠中・分娩後に家族の方に気をつけてもらいたいこと」 北秋中央病院産婦人科婦長 村上スエ先生
 - ・体験学習 沐浴、おむつのあてかた、衣類の着せ方
 - ・講話「離乳食のすすめかた」 試食もあります
 - ・乳児相談見学
- ※お申し込み・お問い合わせは、鷹巣保健所健康増進担当(☎六二一―一六五)まで。

難病療育相談会が開催されます

秋田県難病団体連絡協議会では、難病患者や難病の疑いのある方を対象に専門医の療育指導、医療ソーシャルワーカーによる生活・福祉相談などを行う療育相談会を左記の日程により、開催します。

- 対象 ①秋田県内に住所を有する難病患者及び家族 ②秋田県内に住所を有する難病の疑いのある者及び家族
 - 日時 十二月三日(日)・鷹巣阿仁広域交流センター
 - 日程 午前九時三十分～午前十二時三十分Ⅱ受付 午前十時～午後二時三十分Ⅱ療育相談 午後二時三十分～午後三時Ⅱ反省会
 - 主催 秋田県難病団体連絡協議会
 - 後援 秋田県・秋田県医師会・大館北秋田郡医師会・鷹巣町・森吉町・阿仁町・合川町・上小阿仁村
- ※詳しいお問い合わせは、秋田県難病団体連絡協議会事務局(☎〇一八八一―三二一六・三三三)まで。

はしか予防接種券の交付と 接種日程

- 対象 十二月十三日現在で生後十一月～三十一月(三歳未満)のお子さん
- ※事情によりその期間内に接種できなかった人は、九十ヵ月(七歳六ヵ月未満)まで受けられますのでお申し込みください。
- 接種券交付の日時・場所 十二月一日(金)・午前九時～午後二時 中央公民館保健相談室
- 接種日程 十二月十三日(水) 藤原医院・津谷医院 十二月十四日(木) 奈良医院・北秋中央病院 十二月十五日(金)としま医院
- 持参する物 母子健康手帳

「NHK海外たすけあい」へのご協力をお願いします

～あなたのやさしさを～

- ◆期間 12月1日(金)～12月25日(月)
- ◆主催 日本放送協会、日本赤十字社、NHK厚生文化事業団
- ◆義援金送金先・口座番号
秋田銀行中通り支店(普) 296374
北都銀行本店(普) 0907084
日本赤十字社秋田県支部NHK海外たすけあい
□代表 佐々木喜久治

献血にご協力をお願いします

(献血車巡回日程)

- 全血 (200ml・400ml)

月/日	時 間	場 所
11/16 (木)	10:00～11:50	吉野子どもの村
	12:00～13:00	秋田サンリッツ前
	14:30～16:00	鷹巣警察署前

11月の健康ごよみ

■20日(月)

○母子健康手帳交付と第1回母親学級

場所-中央公民館保健相談室

受付時間-午後1時~1時10分(終了は3時)

内容-母親の心がまえ、妊娠中期の生活指導
母乳栄養について/その他

持参-印鑑

■22日(水)

○健康相談と健康教育

場所-中央公民館保健相談室

時間-午前10時~12時/午後1時~3時

内容-健康相談、血圧測定、ビデオ上映
「腎臓病を予防する日常生活」

■27日(月)

○健康大学(5回目)

場所-中央公民館ホール

時間-午後1時~3時30分

内容-健康劇、受講者による体験発表、講話、
閉講式

※17日(金)から27日(月)に変更になりましたので、ご注意ください。

■28日(火)

○4カ月児健康診査

対象-平成7年7月生まれのお子さん

場所-中央公民館ホール

受付時間-午後1時~1時15分

持参-母子健康手帳、バスタオル

○7カ月児健康相談

対象-平成7年4月生まれのお子さん

場所-中央公民館ホール

受付時間-午前9時30分~9時45分

持参-母子健康手帳、バスタオル

〈予防接種のお知らせ〉

■29日(水)・30日(木)

○三種混合(ジフテリア・破傷風・百日せき)

対象-標準として生後3ヵ月~24ヵ月

(29日) 鷹巣地区以外

(30日) 鷹巣地区

場所-中央公民館ホール

受付時間-午後1時~1時30分

持参-母子健康手帳

担当医-(29日) 佐々木勝次・石川馨・津谷
泰夫・遠藤勝実

(30日) 高世光弘・奈良正人・盛岡
敬二・野口博生

健康広場



9月6日に行われた3歳児
健診で、虫歯のなかったお
子さんを紹介します。



舟見町
すぎえ みらいちゃん



新屋敷町
なりた りほちゃん



元町
さとう ふみあきちゃん



向黒沢
てろうち ゆいかちゃん

夜間当番医(夜間診療)日程表

(午後6時30分~9時)

11月	曜日	医療機関名	電話番号
16日	木	津谷内科	62-2261
17日	金	たむら内科クリニック	63-2700
18日	土	遠藤クリニック	63-0515
19日	日	石川耳鼻咽喉科医院	62-1400
20日	月	奈良医院	62-1146
21日	火	佐藤外科消化器科医院	62-1420
22日	水	佐々木産婦人科医院	63-0105
23日	木	藤原医院	62-2882
24日	金	としま医院	62-1267
25日	土	盛岡外科医院	62-1101
26日	日	戸嶋産婦人科医院	62-1123
27日	月	近藤医院	62-1155
28日	火	津谷内科	62-2261
29日	水	北秋中央病院	62-1455
30日	木	遠藤クリニック	63-0515

○応急の診療を要する患者。
○往診はしておりません。
○仕事や職場の都合で夜間診
療を受ける場合は、診療に

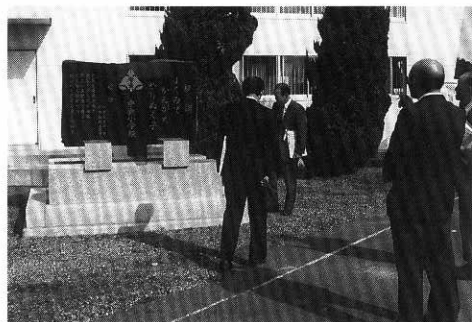
※年齢・病気の病状にかかわ
らず当番医に電話等でご相
談ください。

祝
創立120周年

中央小で記念式典と記念事業
百二十年の輝かしい伝統を受け継ぎ、
新たな飛躍を誓う！

昨年の綴子・南・鷹巣小学校に続き、町内四番目に創立百二十周年を迎えた中央小学校（今野富士夫校長、児童二百三十一人）では、十月二十二日に記念式典が行われました。式典には児童や父兄、学校関係者など約四百五十人が出席。来賓の方々からお祝いの言葉などが贈られたほかに、卒業生であるオリックスブルーウェーブ球団の中嶋聡選手からもメッセージが寄せられ、百二十年の節目とこれまでの歩みを祝うとともにさらなる発展と飛躍を誓いあいました。

「記念事業」・記念碑の製作・児童用テント二張・スノーマービル・記念誌「おさるべ」、記念文集「ちゅうおうわらしっこ山」の発刊・航空写真、下敷き製作ほか



体育館わきに記念碑が建立されました



中央小学校の歩み

明治八年九月二十六日 畠山良助宅を校舎に脇神学校を開校（児童二十人）

昭和二十二年四月 新学制施行により沢口小学校と改称

昭和三十四年十月 全国給食優秀校表彰される

昭和四十四年四月 中央小学校と改称

昭和四十七年四月 統合により現校舎新築移転

昭和五十三年八月 PTA全県PTA会長賞受賞

昭和五十四年十一月 学校緑化コンクールで県知事賞受賞

昭和六十年八月 全県学童相撲大会団体優勝

○全国交通安全緑十字銀賞受賞、全国よい歯の学校表彰ほか各分野で受賞多数

○教育目標 「心ゆたかであくましく、自ら学ぶ子どもの育成」

○卒業生五千八百二十五名を輩出

国体で町在住の二選手が優勝

— 中嶋豊選手・三沢靖彦選手 —

先に福島県で開催された第五十回国民体育大会で優勝した中嶋豊選手（能代工高三年・川口）と三沢靖彦選手（二十三歳・大堤）の二選手が先月二十七日、役場に優勝の報告に訪れました。中嶋選手は広報十一月一日号でも紹介しましたが、陸上競技少年男子共通走り幅跳びで大会新記録（追風参考）を出して優勝。一方、三沢選手は相撲団体成年一部Bチームの中堅として活躍し、秋田県チームの初優勝に貢献しました。同選手は、鷹巣農林高校時代にもインターハイに出場しており、「今回が最後のチャンスと思いい大会に臨んだが優勝できてうれしい」と喜びを語っていました。

岩川町長も「町民が全国のチャンピオンになり素晴らしいこと。他の人の励みになる」と二選手の快挙を祝福していました。



優勝の喜びを語る2選手
(右が三沢選手、左が中嶋選手)

暮しの情報

INFORMATION



勤労感謝の日
(11月23日)

鷹巣町町村合併40周年 記念品贈呈のお知らせ

町では町村合併40周年記念品として、各世帯に秋田杉の「写真たて」をお配りしております。記念の品として大事にお使いいただければ幸いです。
—鷹巣町—

農業者年金 定例相談会

農業者年金について、いろいろご相談のある方々のために、定例相談会を開きます。加入のことや、近々経営移譲を予定している方はお気軽においでください。

▽日時 十一月二十八日(火)

午前十時～午後三時

▽会場 鷹巣町役場三階第一

会議室

個人水利施設 代表者の皆さんへ

町では来年二月上旬より申告相談を予定しております。

共同施設(揚水等)による負担金は申告の際、必要経費として控除することができます。昨年提出していただいた方には用紙を送付しております。

秋田内陸縦貫鉄道 (株)からお知らせ

秋田内陸線列車ダイヤが 改正されます

JRでは、田沢湖線新幹線化工事のため、平成七年十二月一日から列車ダイヤを改正することになりました。

これに伴い秋田内陸線の列車ダイヤも改正することになりましたので、沿線皆様のご協力をお願いいたします。

〔主な改正点は次のとおりです〕

- (1) 現行 角館駅19時32分発阿仁合行「急行もりよし4号」

↓
改正後 角館駅17時26分発

阿仁合まで急行列車、阿仁合から鷹巣までは普通列車として直通運転

- (2) 鷹巣駅19時40分発阿仁合行の普通列車を新設

※その他の列車でも時刻変更になっている列車がありますので、時刻表を確認のうえご利用ください。

秋田内陸縦貫鉄道株式会社

福祉にとあたたかい善意

—日民秋田県北支部から町社協へ—

このほど、日本民謡協会秋田県北支部(戸沢義若支部長)から福祉に役立ててもらいたいとして町社会福祉協議会(会長 岩川徹町長)へ寄付がありました。

この寄付は同支部が主催して先ごろ行われた第二十六回民謡民舞チャリティー発表大会での収益金の一部で、同支部からは創立以来二十六年間にわたり善意が寄せられています。

同支部では会員一丸となって民謡チャリティーに取り組んでおり、寄付ができるのも民謡ファンのおあたかい善意のおかげとのことで、寄付を受け取った岩川町長も「福祉のために大切に使用させていただきます」とお礼をのべていました。



平成7年度 全国青少年健全育成 強調月間実施中

11月1日(水)～11月30日(木)

し尿汲み取り料金が
平成8年1月1日から変わります
現行1ℓ…5円(税込)→新料金1ℓ…6円(税込)

鷹巣町外六ヵ町村衛生施設組合

すが、今年新たに始められた方や昨年提出しなかった方には用紙を送付できませんので十一月末日までに経費の領収書・償還金年次表・購入証明書等を添付し、税務課町民係まで提出してください。

届出用紙は町民税係に準備してあります。

※お問い合わせは役場税務課町民税係(☎六二二一一一一内線一六二・一六三)へ。

自衛隊生徒 採用試験案内

▽応募資格 来春卒業予定の中学生

▽受付期間 八年一月四日迄

▽初任給 十四万九千七百円

▽試験日 平成八年一月六日

※詳しいお問い合わせは役場住民生活課住民係(☎六二二一一一一内線二二三・二二五)

または自衛隊大館出張所(☎〇一八六一四二一一三九八)へ。

危険物取扱者 試験案内

▽試験区分 ①甲種・乙種

(第一～六類)・丙種 ②乙種(第四類)・丙種

▽試験日 ①平成八年一月十一日 ②平成八年一月二十日
▽受付期間 十一月二十四日～十二月八日(必着)
※受験案内請求・お問い合わせせ・応募は、(財)消防試験研究センター秋田県支部(〒〇一〇秋田市中通四一三一二三・☎〇一八八一三六一五六七三)へ。

香典返し

▽田中〓三沢隆二さんから亡母サナさんの香典返し
▽小森〓笹原正さんから亡父虎吉さんの香典返し
▽松葉町〓菅原タカさんから亡夫晴雄さんの香典返し
▽吉ヶ沢〓佐藤孫蔵さんから亡長男政美さんの香典返し
▽根木屋敷〓堀部亮一さんから亡母トミエさんの香典返し
▽七日市本郷〓長岐敏彦さんから亡父徳蔵さんの香典返し
▽田中〓三沢絹代さんから亡母佐藤ツヨエさんの香典返し
▽前山〓熊谷仁三郎さんから亡母タカさんの香典返し
▽糠沢〓出川一儀さんから亡母ツナさんの香典返し
▽舟場〓宮口フサ子さんから亡夫重太郎さんの香典返し
▽あけぼの町〓秩父仁郎さんから亡妻ナホさんの香典返し

第五回

鷹巣祇園太鼓審査会

▼日時 十一月二十三日(木) 午後一時半～

▼会場 たかのす風土館 (ファルコン)

▼入場料 無料

〈特別企画〉

①鷹巣祇園太鼓誕生十周年に寄せて

北嶋智仁氏が語る!!

―和太鼓とバイオリンの哲学的な競演も―

②審査会五周年を記念して

“鷹巣祇園太鼓Part II発表!!”

○主催 鷹巣祇園太鼓審査会実行委員会

○後援 鷹巣町教育委員会

〈お願い〉

太鼓練習にご理解を

町内各小学校の太鼓クラブや父母の会では、十一月二十三日(木)の祇園太鼓審査会に向けて練習に励んでいます。そのため、夜間の練習は学校の近隣の方々に迷惑をおかけしていると思いますが、どうぞご理解のうえ、ご協力のほどお願いします。

慶弔だより

10月16日～31日・敬称略



誕生おめでとう

ございます

桜庭あかり(義彦)二女 蟹 沢
高井あき実(亜錦)長男 南 鷹 巢
杉淵み海佳(雅樹)長女 内 幸 町



二人の前途を

祝福します

(千 葉 稲 穂 堂 ケ 岱
戸 澤 久 子 新 田 中
藤 岡 郁 夫 合 川 町
藤 嶋 睦 子 綴 子 下 町
長 岐 一 也 宮 前 町
高 橋 恵 美 合 川 町

おくやみ申し上げます

佐藤ツヨエ (75歳) 田 中
山内 サツ (81歳) 糠 沢
長岐 徳藏 (73歳) 七日市本郷
堀部トミエ (81歳) 七日市本郷
米澤 房江 (63歳) 松 葉 町
戸嶋 キヨ (92歳) 街 道 町
熊谷 タカ (86歳) 前 山
千葉 リエ (82歳) 横 渕
栗生澤 實 (80歳) 伊 勢 町
成田 ハル (84歳) 舟 見 町
松尾 チナ (79歳) 松 葉 町
五代儀 進 (66歳) 松 葉 町
高橋 孝司 (60歳) 南 鷹 巢

11月は

保 険 税 5 期
の納期です

～納期内に忘れずに納めましょう～

新用途地域は

12月1日から

施行されます



鷹巣都市計画(新)用途地域は、平成七年十二月一日告示、同日から施行となります。

「用途地域」は、建築物の用途や規模などの形態を制限しながら、住みやすく快適な都市環境を創り保持していくことを目的として定められるものですが、今回の指定替えにより建築物の用途や規模などの制限が従前と異なる地域がありますので、これから建築確認申請書を提出される方や新築・増改築などの計画のある方はご留意ください。

なお、告示日から役場建設課において図書を縦覧いたします。

※用途地域についてのお問い合わせは、役場建設課住宅公園係(☎六二一〇一〇一内線二九二)までおたずねください。

あなたは知っていますか?

悪質商法

①

◆タダでものをくれるといっても…

- ・日用品や食料品の安売り、健康器具の説明会をするとの名目で人を集め、閉めきった部屋やバスの中で、熱狂的な雰囲気盛り上げて商品を売りつけます。
- ・業者の巧みな話術についついのせられ、気がついたら高額な羽毛布団や磁器マットレスを買わされたというものです。



タダほど
高い物は
ナイ!

◆クーリング・オフ あなたの味方に…

- ▶クーリング・オフ制度とは…訪問販売で契約したけれど、考えてみたら必要ないものであったり、今後の支払が大変だと思ったりした場合、違約金などを払わずに、無条件で解約できる制度です。
- ▶ただし期間は「8日」、現金は「3,000円」以上
- ▶さらに手続きは、必ず「書面」で…電話での解約はトラブルのもと。内容証明郵便か簡易書留ハガキで通知することがポイント。

◆困ったときはどうぞご相談ください。

- ・秋田県生活センター (アトリオン内7階) ☎0188-35-0999
- ・北秋田福祉事務所「県民生活課」 ☎62-1275
- ・鷹巣町役場商工観光課 ☎62-1111



鷹巣町廃棄物の処理及び清掃に関する条例

が改正されました ② ～事業者編～

平成7年9月議会で「鷹巣町廃棄物の処理及び清掃に関する条例」（昭和47年公布）が全部改正になりました。

この条例が改正されたことで、町、事業者、住民それぞれに責任や義務が課せられたり、規制の強化、協力体制の強化が定められました。

今回は主に事業者の方が守らなければならないことについてご紹介します。

⑥事業者は、ごみの保管場所を建物もしくは敷地内に設置しなければなりません。

取りするなどの回収に努めなければなりません。

⑤製品、容器等がごみになった場合に、その処理が困難となる物の製造、加工、販売等を抑制するとともに、下

④リサイクル可能な包装、容器等の普及に努め、使用後の回収策を講じたり、住民が商品購入の際に適正な包装・容器等を選択できるように努め、住民が不要、返却を

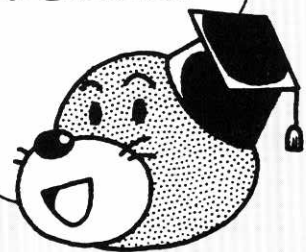
③再利用可能な物の分別を徹底し、リサイクルを促進するため必要な措置を講ずるなどしてごみの減量に努めなければなりません。

②ごみの発生を抑え、再利用を促進することなどでごみの減量を図るとともに、物の製造、加工、販売等に際してごみが発生した場合に、その処理が適正に行われるよう

①事業活動によって生じるごみは、町の収集（集積所）に出すことができません。また、事業者の責任において適正に処理しなければならず、町営ごみ埋立処分場に運搬するか、許可業者に委託依頼しなければなりません。

事業者（事業所・商店・飲食店・農家等）が守らなければならないこと

鷹巣町の自然は町民みんなの財産。かけがえのない自然を守るためにも自分たちでできることを心がけていきたいね。



事業ごみの受け入れ基準は次の六項目です

①町の処理計画に基づき、指示した適正な分別がなされていること。

②悪臭、有害性、危険性、引火性がないこと。

③ごみを運搬する場合に飛散したり、流出しないようにすること。

④ごみ処理の際、事業所が自ら行うことができない場合は許可業者に委託すること（許可業者以外の収集運搬、処分は禁じられています）

⑤事業所が自ら町営ごみ埋立処分場に運搬する際には、あらかじめ所定の受付（車検証でナンバー、積載量などを確認します）により、利用券を購入すること。

一般廃棄物処理手数料（ごみ処理手数料）が来年度から変わります

※平成8年1月以降の一般廃棄物処理手数料（埋立地利用料金）

積載区分	金額
1t未満	500円
1t以上～2t未満	1,000円
2t以上～4t未満	2,000円
4t以上～6t未満	4,000円
6t以上	6,000円

（消費税込み）

◆十一月より二月まで町営ごみ埋立地は冬季時間として、午前八時三十分～午後四時までとなりますので、搬入の際は午後三時三十分までにご入場ください。

◆平成八年一月より町営ごみ埋立地の閉鎖日が毎週金曜日になります。

ご不明な点や詳細についてのお問い合わせは役場住民生活課環境生活係（☎六二一一一一）へ